

みんなく映画会

みんなくワールドシネマ

映像に描かれる〈包摂と自律〉

—支援と絆—



君を想って海をゆく

© 2009 Nord-Ouest Films-Studio37-France 3 Cinéma-Mars Films-Fin Août Productions.

第17回上映会

2012年9月22日[土・祝] 13:30~16:30 (開場13:00)

場 所 国立民族学博物館 講堂

参加料 無料 (ただし、本館展示をご覧になる方は観覧料が必要です。)

定 員 450名 入場整理券を10:00から講堂入口にて配布します。事前申込は不要です。

主 催 国立民族学博物館

WELCOME

2009年/フランス映画/フランス語・英語・クルド語/110分/日本語字幕付き

監督/フィリップ・リオレ 出演/ヴァンサン・ランドン フィラ・エヴェルディ

司 会 鈴木 紀 (国立民族学博物館 先端人類科学研究部・准教授)

解 説 植村清加 (東京国際大学 人間社会学部・専任講師)

お問い合わせ 国立民族学博物館 広報企画室 企画連携係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL. 06-6878-8210 (土日祝を除く9:00~17:00) <http://www.minpaku.ac.jp/>



国立民族学博物館



みんなくワールドシネマ

映像に描かれる〈包摂と自律〉 —支援と絆—

国立民族学博物館では、2009年秋から開始した機関研究〈包摂と自律の人間学〉のテーマにあわせて、研究者による解説付きの上映会「みんなくワールドシネマ」を実施しています。第4期は〈支援と絆〉をキーワードに映画上映を展開していきます。今回は、フランス映画「君を想って海をゆく」を上映します。空虚な生活を送る孤独な中年男性と不法移民の少年との交流を通して、支援とその現実を、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

第17回上映会

2012年9月22日(土・祝) 13:30~16:30(開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂

参加料 無料(ただし、本館展示をご覧になる方は観覧料が必要です。)

定員 450名

入場整理券を10:00から講堂入口にて配布いたします。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

君を想って海をゆく WELCOME

2009年/フランス映画/フランス語・英語・クルド語/110分/日本語字幕付き

監督/フィリップ・リオリ 出演/ヴァンサン・ランドン フィラ・エヴェルディ オドレイ・ダナ

司会 鈴木 紀(国立民族学博物館 先端人類科学研究部・准教授)

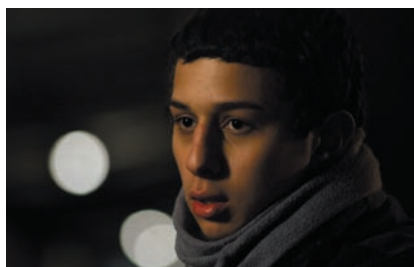
解説 植村清加(東京国際大学 人間社会学部・専任講師)

映画解説

不法入国者への支援が違法とされるフランス最北端の港町・カレを舞台に、イラクからイギリスに移り住んだ恋人を追い、ドーバー海峡を泳いで渡ろうとするクルド難民の少年と、別居中の妻に未練を残し、市民プールの指導員として孤独な日々を送る元メダリストとのふれ合いを、情感豊かに描く佳篇。難民に食糧を配るボランティアに携わる妻への見栄を発端に、水泳の猛稽古に励む少年の一念な愛に次第に感銘し、親身に世話する中年男に湧き起こる葛藤は、誰もが支援に関わり得る可能性を肯定した上で、それに伴い生じる責任の重みをも、痛切に物語る。入念な取材を重ねたフィリップ・リオリ監督は、命懸けでたどり着いたカレでも警察や偏狭な市民の監視の目にさらされ続ける難民の窮状や、法の壁に屈せず彼らのため個々に活動する人たちの強靱な勇気を、心揺さぶるフィクションとして結実させた。(服部香穂里)

「庇護」と「不法」のあいだで問われる自律的空間

ユーラシア大陸とイギリスの結節点となる国境の町・カレ。1999年からコンボやイラク、アフガニスタン等の紛争や経済的困窮を逃れた難民の収容所が開設され、港周辺に国境越えを試みる人びとが増大した。2002年、英仏両政府は治安と国境管理の強化で連携し、収容所を封鎖したが、押し寄せる人びとは後を絶たない。2009年から国連が調整に乗り出している。難民や移民として正規化されるのは一握り。より高度化する国境管理技術と、その網をかいくぐろうと生存をかけた人びとが攻防を繰り返す。本作品の原題『Welcome』は、自国が求める移民には門戸を開く一方、それ以外の非正規滞在者の締め出しを実施する選択的移民政策を指したものだ。2007年以降、サルコジ政権は公約でもあったこの政策の強化を図ってきた。非合法移民を助けたフランス市民に実刑を下す法が制度化し、市民の庇護や援助、あるいは他者の生存への「ごく普通の関わり」が国境管理の論理から監視と処罰の対象に転化したことへの批判も物語の重要な要素だ。それゆえ「非正規」化された人びとの生との関わりあいは、国家の包摂から逸脱しつつも、人々が自らの生を選択する自律的な状態として表現されている。(植村清加)



© 2009 Nord-Ouest Films-Studio37-France 3 Cinéma-Mars Films-Fin Aotit Productions.

「包摂と自律の人間学 —支援と絆—

国立民族学博物館 先端人類科学研究部・准教授 鈴木 紀

包摂とは、自分では解決できない困難を抱えている人に対して、他の人や社会全体が支援の手をさしのべることを意味します。自律とは、支援を受けた人が少しずつ自信をつけ、やがて自分でその問題に向きあえるようになることを意味します。このように包摂と自律を実現するためには、支援という行為が鍵になります。それでは、よい支援とはどのようなのでしょうか。それは支援する人と支援を受ける人との間に信頼感が育まれ、相互に強い絆を意識するような場合ではないでしょうか。もとより、おごりな支援からは絆は生まれませんが、過剰な支援も絆を支配従属関係に変えてしまう危険性があります。そのためよりよい支援のためには、なぜ、どのくらい、いつまで、誰に支援するか／誰から支援を受けるかが問われることになります。支援と絆をめぐるこうした問題を、映画を通して考えましょう。

交通のご案内

＊国立民族学博物館(みんなく)は大阪・千里の万博記念公園内にあります。「みんなく」とは大学共同利用機関法人 人間文化研究機構国立民族学博物館の愛称です。

●大阪モノレール

「万博記念公園駅」下車徒歩約15分

＊映画会のみ参加される方は、自然文化園(有料区域)を通行される場合、入園料が必要となります。

「公園東口駅」下車徒歩約15分

＊「公園東口駅」からは自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。

●バス

〔近鉄バス〕(阪大本部行き) 阪急茨木市駅から約20分

JR茨木駅から約10分「日本庭園前」下車、徒歩約15分

〔阪急バス〕(万博記念公園駅経由千里中央行き)

阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分

「自然文化園・日本庭園中央」下車、徒歩約5分

●タクシー

万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れることができます。

下車、徒歩約5分

●乗用車

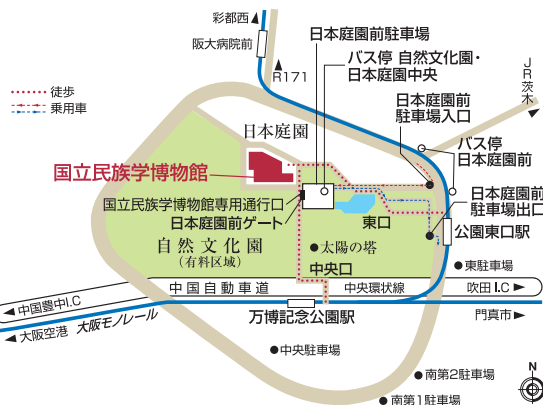
駐車施設が無い「みんなく」への車の乗り入れはできません。

万博記念公園の駐車場(有料)をご利用願います。

最寄り「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分

＊「日本庭園前駐車場」をご利用の方は、「日本庭園前ゲート」横にある

国立民族学博物館専用通行口をお通りください。



お問い合わせ

国立民族学博物館 広報企画室 企画連携係
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL.06-6878-8210(土日祝を除く9:00~17:00)
<http://www.minpaku.ac.jp/>



次回予告

第18回上映会

2012年11月10日(土)

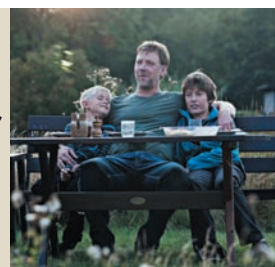
未来を生きる君たちへ In a Better World

2010年/デンマーク・スウェーデン合作/
デンマーク語・スウェーデン語・英語/
118分/日本語字幕付き

監督/スサンネ・ピア

出演/ミカエル・パーシェブラント

トリネ・ディアホルム



© Zentropa Entertainments16